

平成24年度研究科横断型教育プログラム(Aタイプ)授業科目

開講方式	Aタイプ (研究科 開講型)	研究科名	理学研究科 (アクチュアリーサイエンス部門)		横断区分	文理横断型		開講場所	理学部2号館 第1講義室
授業科目名	年金制度設計論 Pension Plan Design				講義担当者 所属・氏名	理学研究科 上原 尚、片寄郁夫、豊留 健			
配当学年	修士 1.2回生	単位数	2単位	開講期	後期	曜時 限	水3限	授業形態	講義
〔授業の概要・目的〕									
<p>高齢化社会を迎え、社会の大きな柱である年金制度は日本のみならず世界各国において重大な課題となっている。公的年金分野においては、少子高齢化の進行、経済成長の鈍化などを背景に日本や欧米において年金財政が厳しくなっており持続可能な年金制度の構築が喫緊の課題となっている。</p> <p>一方、公的年金を補完する企業年金分野においては、従業員雇用形態の多様化、資産運用環境の変化、年金受給者の増加、更には国際会計基準の導入など対応すべき課題も多く企業経営にも重大な影響を与えかねない問題となっている。</p> <p>本講座では、こうした年金制度設計を巡る現状と課題についての理解を深めた上で、年金制度設計の根幹となる『年金数理』についての基本的な考え方を学ぶと共にそれに関連する会計制度や資産運用などについても言及していく予定である。</p>									
〔研究科横断型教育の概要・目的〕									
<p>上に述べたように年金制度として公的年金・企業年金を含め考え方の基本となる『年金数理』のみならず、会計制度、資産運用等も絡む非常に幅広い内容を含んでいる。その意味で本講座は研究科横断型講座に該当する。</p>									
〔授業計画と内容〕									
この講義はリレー講義です。企業で活躍している3人の実務家が下記テーマをもとに講義します。									
<p>I. 年金制度の概要</p> <p>I-1 現在の年金制度の仕組み</p> <p>I-2 年金制度を巡る環境変化と課題</p> <p>II. 年金数理</p> <p>II-1 年金数理とは ～ 基本原理，計算基礎率，定常人口</p> <p>II-2 計算基礎率の算定 ～ 予定脱退率，予定昇給率，予定新規加入者，その他の計算基礎率</p> <p>II-3 年金現価 ～ 金利計算，確定年金，生命年金</p> <p>II-4 年金制度の財政運営 ～ 定常状態と極限方程式，責任準備金と未積立債務，財政方式</p> <p>II-5 各種財政方式の構造 ～ モデル制度，各種財政方式における掛金額、年金資産、責任準備金</p> <p>III. 年金財政</p> <p>III-1 財政検証 ～ 財政検証の意味，実務，要因分析，一般的な制度とファクターの公式</p> <p>III-2 財政計算 ～ 財政計算の意義，財政計算の種類，企業年金の財政計算の実際</p> <p>IV. 年金会計と退職給付債務</p> <p>退職給付会計の概要，退職給付会計と年金財政の相違点，退職給付債務(費用)の計算 国際会計基準</p> <p>V. 投資理論への応用</p> <p>年金資産運用の現状，企業年金の資産運用と年金ALM，年金運用の実際及び最近の動向</p>									

〔履修要件〕

特にありません。

〔成績評価の方法・基準〕

レポートによる。

〔教科書〕

「年金数理概論」(朝倉書店)、他詳細については適宜掲示します。

〔参考書等〕

授業中に紹介します。

〔その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)〕

詳細については適宜掲示しますので、注意してください。